

Ⅱ. 農作業事故の特徴

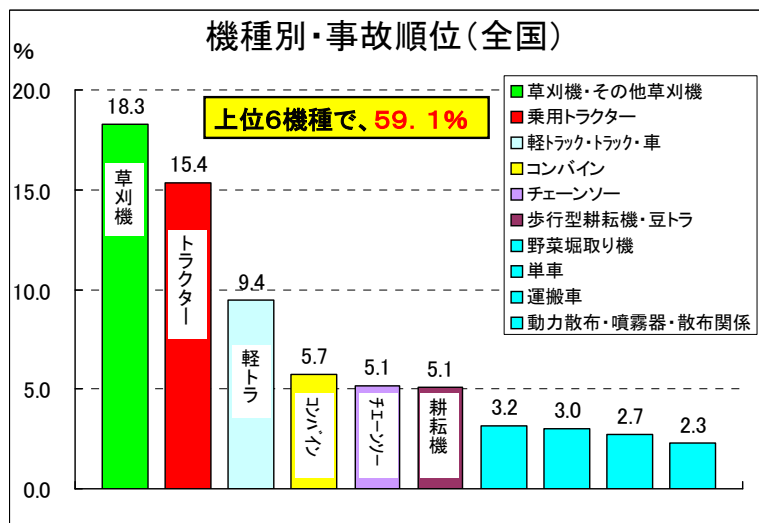
1. 集中して発生している農機具がある

(1) 農機6機種で、農機事故の6割

2000年の農作業事故調査で、農作業事故約10,600件中、農機による事故は、3,750件でした。

機種別では、**草刈機、トラクター、軽トラ、コンバイン、チェーンソー、耕耘機**の順でした。各地域とも、順位の入替わりはありますが、ほぼ同じ傾向です。この6機種で農機事故全体の約6割を占め、この6種の事故対策で農機事故の6割を削減できます。

もちろん、地域による特徴があります。

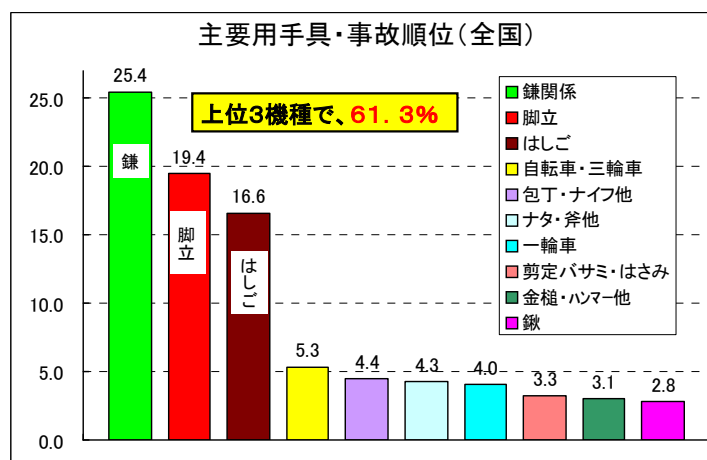


上記10機種で、全体の70%を占める

(2) 用手具3種で、用手具事故の6割

同じく2000年調査の用手具の事故1,867件中、**鎌、脚立、はしご**の3機種で用手具事故の約6割が発生しています。

つまり、この3種の用手具の事故を防ぐことで、用手具事故の6割を減らすことができます。



上位10種で88.6%、上位5種で71.2%を占める

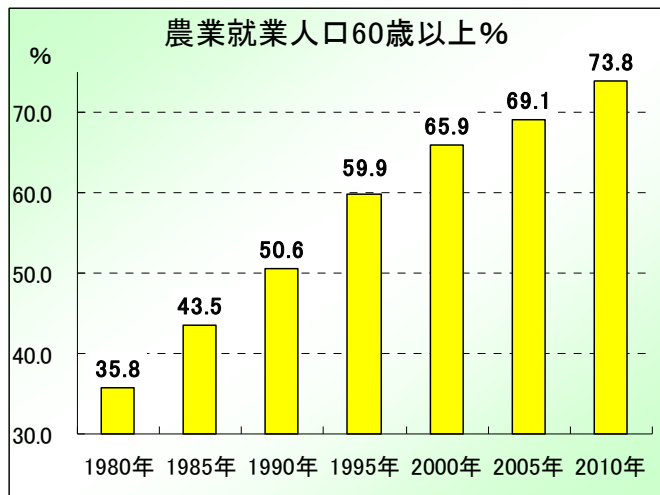
2. 高齢者に集中する農作業事故

(1) 高齢者が農業の中心的担い手

図は、60歳以上の農業就業者の割合を示したものです。

この30年間で35.8%から73.8%に上昇、他産業では、「高齢者」として退職した年齢の人が、中心的に農業を担っています。

しかし、残念ながらこの30年間に、圃場環境、施設、農機具等が、高齢者にあつたものに変更されていません。

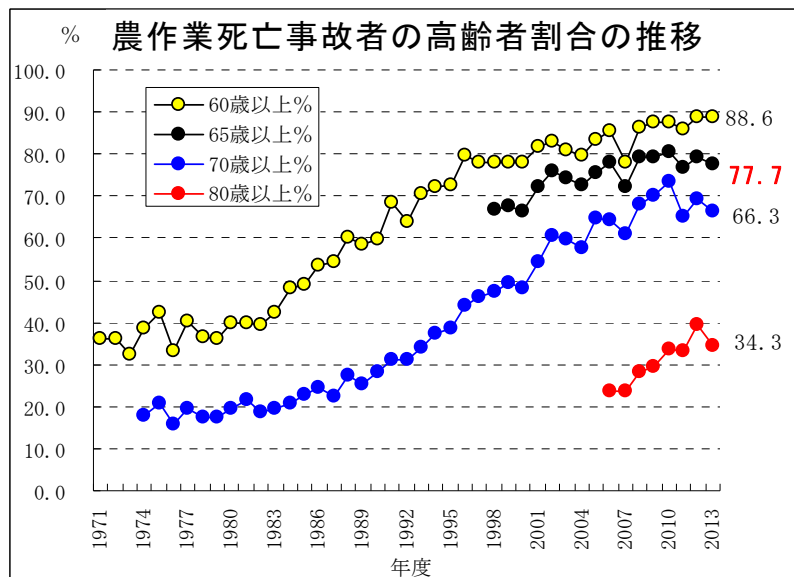


(2) 死亡者の約8割が65歳以上の高齢者

農水省の農作業死亡事故調査によると、現在65歳以上の高齢者の割合は77.7%と8割近くを占めています。

また、調査開始の1971年の60歳以上の割合は36.3%ですが、2013年には88.6%と、約9割となっています。他産業では退職した年代の人が、死亡者の9割を占めています。

さらに、70歳以上が66.3%、80歳以上が34.3%、約3分の1を占めています。



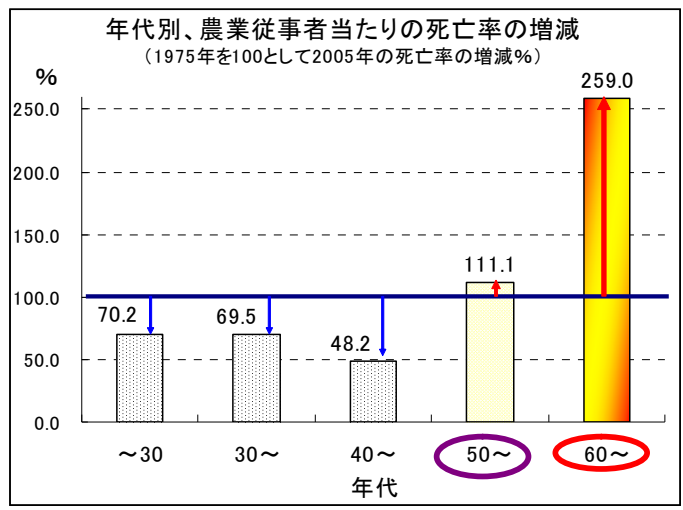
**農村は高齢者の職場、農作業環境、農機具、農業資材など、
全て高齢者仕様に変える、「発想の転換」を**

(3) 死亡率が上昇した高齢者 -過去30年間で-

図は1975年を100として、2005年の年代別、農業従事者当たりの農作業事故の死亡率を比較したものです。

その結果、50歳代未満の年代ではいずれも死亡率が低下していますが、50歳代では約1.1倍、60歳代では2.6倍死亡率が高くなっています。

つまり、2005年の60歳以上では、30年前より、2.6倍「死にやすくなった」ということです。これは、高齢の農業従事者が増えただけでなく、これまで若者がやっていたきつい農作業も高齢者が中心にならざるを得なくなったことや、高齢者仕様の環境改善や農機具の開発が遅れていることとも深く関連していると考えられます。



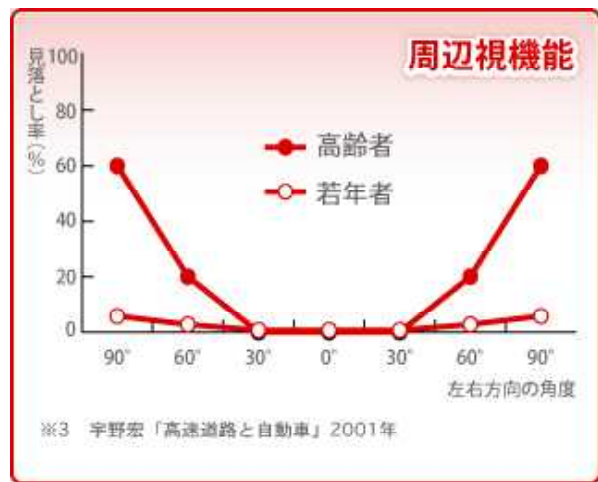
(4) 高齢者は熟練者、が毎年確実に身体機能は低下

高齢者は、大変「熟練者」です。しかし、年と共に身体機能は間違いなく、低下しています。

視力は、図のように周辺に対する認知機能が衰えます。また、読書の際に60歳の方は20歳の人の3倍の明るさが必要とされています。また薄暮などでは色のコントラストの識別能力が衰えます。

その他、物事を同時に処理する能力も衰えていきます。

毎年順調に、確実に老化していきます。ですから、逆に毎年確実に安全策を順調に徹底させていく必要があります。



「まだ若い者に負けんぞ！」でも、あなたは毎年順調に老化しています。毎年安全の向上を！

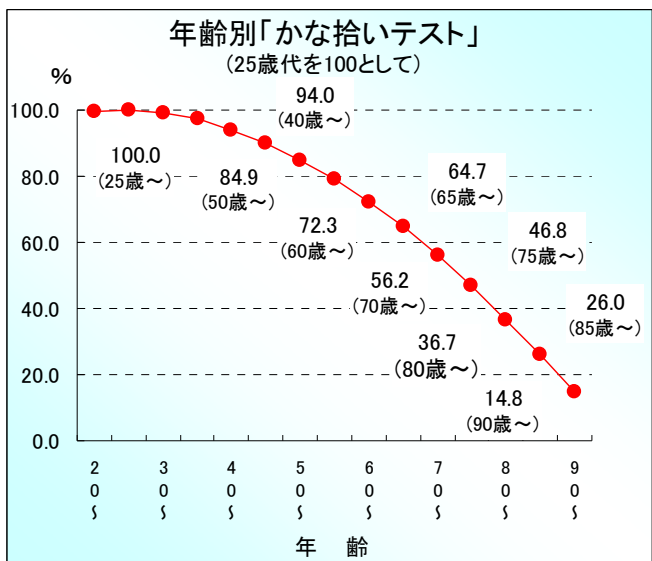
(5) 「認知⇒判断⇒操作」の能力低下

トラクター等、農業機械を運転する際、危険回避をするためには、危険を「認知」し、どのように危険を回避するかを「判断」し、判断に基づき確実に「操作」する、つまり「認知⇒判断⇒操作」の一連の行動がスムーズに行かなければなりません。

右の図は、「認知⇒判断⇒操作」の能力を測るテストの一つの「かな拾いテスト」を750人に行い、25歳代の平均点を100として、加齢に伴う低下を示したものです。

65歳では、若い人に比べ3分の1に低下し、さらに加齢とともに極端に低下しています。

もちろん、個人差はありますが、加齢と共に確実に、運転等の能力が低下すると言えます。



*「かな拾いテスト」(浜松医療センター 金子満雄先生開発)：ひらがなばかりで書いてある物語の中から、「あ・い・う・え・お」の文字に○をつけつつ、同時に意味を読み取るテスト。意味を読み取ることに集中すると、「あいうえおが」拾えず、逆に「あいうえお」を拾うことに集中すると意味が読み取れない。

(図は富山県農村医学研究所 大浦栄次の調査から)

